

民泊の思い出

会長 清水芳則

末武地区民泊協力会は、地区の自治会連合会、公民館運営委員会、社会福祉協議会、婦人会、老人クラブに所属する各種団体で組織しました。協力会組織は総務・歓迎・調理・美化・民泊の各班に分け、経験豊かな人をお願いし、協調進取、人の和で対応してまいりました。

事故無く民泊を終えることができ、私達が引き受けた愛知県選手団には優勝という置き土産をいただきました。「耐えて咲く人生の花」の教訓と感動をありがとう。

祝勝会は、市長、副市長、市議会議長さんを招き、立食パーティーをしました。大いに盛り上がり、選手は涙を流し、言葉を詰まらせながら、「お世話になった下松の人にまた会いたい。」など感謝とお礼の言葉を述べていました。また、民泊家庭の方々は、娘か孫のような感じで接し、別れを惜しむ場面もありました。

私は、今日の無縁社会の世相の中、「スポーツマンはすばらしい。アア良かった。」の一言に尽きる思いであります。

関係各位の献身的なご協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



民泊の思い出

調理班長 野村耕造

末武公民館で引き受けた愛知県チームは見事優勝を果たしました。優勝祝賀会には選手・民泊家庭・役員総勢60名の方々に参加いただき、喜び、笑い、感謝の涙でいっぱいの生涯忘れることのできない祝賀会となり、民泊の食事を締めくくることができました。

調理班は、婦人会と給食ボランティアの2つのグループが担当し、4月から調理実習を開始しました。開始当初は日ごろの味がうまく出せず、不安もありましたが、実習の回数を重ねていくうちに普段のおいしい味を出せるようになり、本番は自信を持って望むことができました。

食事は、2つのグループが交代で10回提供しました。調理班の方々は、毎日おいしく安全な食事を提供することに全力を注ぎ、日を追うごとに疲労がたまってきているのが明らかでした。しかし、選手の明るいキャラと祝賀会での「この食事はおいしかったでーす！」という言葉で疲れも吹き飛び、改めて、民泊に協力してよかったと思いました。



民泊の思い出

美化班長 田中正己

昨年、末武地区民泊協力会を立ち上げると同時に、美化班の班長を任せられ、早速50基のプランターでサルビア等を育成した。原因はわからないが、花のできはあまり良くなかった。

今年は、本番でもあり、昨年より40基多い90基を育成することとなり、選手の皆さんを気持ちよくお迎えする花づくりと思うと少し緊張した。美化班のメンバー15名が日照等を考えて、プランターの設置場所を決め、毎日の水やり当番を決め、7月15日の土作りから本格的にはじめた。

その日の花の状況を次の当番に知らせるため、日誌を作成し、花の状況把握とメンバーの意思確認した。

おかげで、選手の方々をお迎えするときにきれいな花を咲かすことができた。美化班全員が一つの輪になり、とても楽しく有意義だった。

民泊家庭を引き受けて

民泊家庭 宝迫和美

ここ、何十年かは、孫以外我が家に寝泊りした者はいない。そんな我が家に他人であるバスケットボール成年女子の選手が泊まる。不安と戸惑いの始まりだった。

初対面、歓迎会、お互いの自己紹介…。なんと気さくな選手たちだろう、これがスポーツ選手なのかと一気に緊張感がとれた。老夫婦だけではと、息子夫婦に孫2人を呼び寄せて、我が家でも歓迎会…娘2人が増えた新家族。

そして、試合ともなると家族総動員。勝ち進む我が愛知県チームに応援も日増しに盛り上がる。小学生の孫も学校観戦での応援席が相手チーム側で戸惑ったようであるが、コートから選手が見つけてくれ合図をくれたと満足顔。

応援の成果があつてか、愛知県チームが優勝し、応援席での喜びの声が盛り上がった。

祝賀会では、各選手号泣のあいさつ、我が家の娘2人も同様に声にならない。後に回りフォローするが、年齢のせい、自分も目頭が熱くなった。そんな雰囲気我が家に持ち帰っての2次会はチーム仲間も集まって、話がつきることがなく、明け方まで続いた。

お別れの日当日、目があった瞬間に駆け寄ってきて、涙を流した。民泊家庭ならではの感動。民泊家庭の仲間と照れ隠しに口にする…「みんな良い娘でよかったですね。」

「2度と経験できないこの感動をありがとう」と選手に向かって叫びたい。





今年度の国体での民泊は、秋田国体以来4年ぶりということで、選手の中には数人経験者がいますが、初めての選手がほとんどでした。

チームとして初めての民泊ということで 多少なりとも不安がありました。

愛知県としては、今回「優勝」という目標があり、県の代表として出場していることも含め、体調管理や、食事等心配なことは色々ありました。

しかし、地元の方の温かい心のこもった歓迎や食事、応援等すべてにおいて何から何まで選手のことを考えてくださったことが、十二分に伝わりました。

特に、食事は大変美味しく、栄養面からもサポートしていただき、選手も大変満足していました。食事班の方々の気持ちのこもった食事には、愛情が感じられる反面大変さが伝わり、力をいただきました。

それぞれの民泊家庭の方々には長期間にも関わらず、温かく迎え入れ、自分の子どものように接していただき 本当にありがとうございました。

体調を崩す選手もおらず、何一つ不自由することはありませんでした。優勝することができたのも、末武地区の方々のおかげだと思っています。

チーム担当の方、今回お世話になったすべての方々に感謝するとともに心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

愛知県バスケットボール成年女子

監督 井上友幸

